

平成 25 年度 学校教育研究推進計画

●初等部のめざす児童像

『豊かなころ』と『確かな学力』、『健やかなからだ』を兼ね備えた、品位ある児童

●平成 24 年度までの研究について

平成 23 年度より、「主体的な伝え合いを通して、深め合う」をテーマに各教科を通して、3 年計画で研究を進めることとなった。2 年間の研究を通して、教科ごとの目標とする児童像の設定、具体的指導法の提案や研究授業に取り組んできた。そして、各教科の単元の中で実践例をいくつか提示することができた。

「主体的な伝え合いを通して、深め合う」をテーマに取り組んで 3 年目に入る今年度は、本テーマでの校内研究のまとめを行っていく。そして、再度、目標とする具体的な児童像を明らかにし、評価方法について教材の開発・工夫を進めていく予定である。

●研究主題

子どもが輝く授業の創造 ～みんなと学び合う喜びを感じて～

「主体的な伝え合いを通して、深め合う」 3 年次

●主題設定の理由

初等部の目指す児童像は、『豊かなころ』、『確かな学力』、『健やかなからだ』を兼ね備えた、品位ある児童である。

- ・ **豊かなころ**とは、建学の精神に基づき、『私たちのちかい』を進んで実践する児童
- ・ **確かな学力**とは、基礎となる学力を身につけ、自ら学び考え解決していく児童
- ・ **健やかなからだ**とは、望ましい生活習慣を自ら実践し、健康で逞しいからだづくりに取り組む児童
- ・ **品位ある児童**とは、自らを律し、礼節のある態度がとれる児童

平成 23 年度からの研究を行うにあたり、事前に各学年で話し合っていたアンケートでは、「**子どもからの発信**」や「**表現力**」といった言葉が多く見られた。この言葉の中には、「ただ発言をする」「答えを発表する」というだけではなく、そこから一歩進んだ「**友達に説明する**」「**思いを伝える**」といった内容が込められていると考える。また、平成 22 年度の反省には、授業中意識しているときは出来るようになってきたが、授業外ではまだ出来ていないという意見があがった。また、高学年の授業をしていて、意欲的に挙手して発言する姿は見られるものの、答えが出ると満足してしまったり、「なぜそうなるのか？」と問われても「習ったから」「公式だから」という理由で説明がうまく出来なかつたりする子どもが多い。自分の考えを書く場面では、なかなか手が進まず、誰かが答えてくれたり、先生が答えを言ってくれたりするのを待っている子どもも多い。そこで感じることは、**子どもが知識重視になってしまっていて能動的に考えようとしないう受身の状態になってきている**ということである。これは初等部だけのことではなく、現代の子どもたち全般に言えることかもしれない。

子ども同士の伝え合いは、国語だけでなく、どの教科においても行われるもので、子ども同士の学びあいには不可欠なものである。そこで平成 23 年度からの研究では、今まで国語で研究してきた伝え合う

力を引き継ぎ、それぞれの教科で伝え合う力の育成を図っていきたいと考える。そして、それぞれの教科でその育成を図ることで、授業外の日常生活でも生かされる伝え合いの力を育てていくことが出来る

と考える。

まず、大テーマは引き続き**子どもが輝く授業の創造**とする。

・子どもが輝くとは

子どもが主体的、意欲的に取り組んでいる姿（熱中する、悩む、真剣に考える）

子どもがわかったと納得したという達成感をもつ姿

（「あっ！」というつぶやきや、思わず笑顔になる）

子どもがあきらめず、最後までやりぬく姿（粘り強く取り組む）

次に中テーマとして、**みんなと学び合う喜びを感じて**を新しく加えた。これは次の小テーマとも関わってくるところであるが、人と関わりをもち、学級で学び合うことに喜びを感じられる子どもを育てたいという思いからである。

そして小テーマとして、**主体的な伝え合いを通して、深め合う**を設定した。

・主体的な伝え合いとは

子どもが話したい、聞きたい、思いを伝えたいという気持ちをもって取り組む伝え合い。

先生対子どもではなく、子ども対子どもで子どもたちが中心になっておこなう伝え合い。

習得した知識・技能を活用して、自ら考え、友達に働きかけていく伝え合い。

・深め合うとは

出てきた意見や考えをより良いものにしていく。

今までなかった見方、考え方を生み出していく。

はっきりと分かっていなかったものがはっきりと分かるようになる。

●研究の目標

『豊かなこころ』、『確かな学力』、『健やかなからだ』を兼ね備えた、品位ある児童を育て、将来社会の中で多くの人と関わりながら、自分の考えを深め、課題を解決していくことの出来る人材を育成する。

そのために、研究主題の小テーマを、「**主体的な伝え合いを通して、深め合う**」とし、それぞれの教科で子どもが主体的に友達と関わって伝え合おうとする態度の育成や、その伝え合いから思考を深めたり、理解を深めたり、課題を解決したりする力の育成の方法を研究していきたいと考える。

また、この研究を進めていくことによって、授業だけでなく、日常生活でも生かされる伝え合いの力を身につけさせていくとともに、授業でも子ども同士の意見のやり取りの中で、学習を深めていくことが出来るような子どもを育てていきたいと考える。

そして、伝え合いから思考を深めたり、理解を深めたり、課題を解決したりする力の育成のためには、習得した、知識・技能を活用し、自ら考え、友達と働きかけ合いながら、より良いものにしていくことが必要であり、これは、**習得型・活用型・探究型**の学習によって培われるそれぞれの**学力**が関わってくるものである。また、友達との伝え合いや学び合いを通し、自分の想いと相手の想いを考えながら学習

を進めていくことは、**豊かな心**に関わってくるものでもある。以上のことから、この研究を進めていくことは、初等部の目指す児童像の**豊かな心**と**確かな学力**の育成にもつながっていくものであると考える。

●研究の仮説

各教科で子どもが**話したい、聞きたい、考えを伝えたい**という主体的に伝え合おうとする学習を行っていくことで、授業だけでなく、日常生活の場面でも生かされる伝え合う力をもった子どもを育てることが出来ると考える。また、その伝え合いから思考を深めたり、理解を深めたり、課題を解決したりする学習を行っていくことで、人との関わりの中で、自らの考えを深め、解決していく力をもった子どもを育てていくことが出来ると考える。

●研究の内容と方法

①教科ごとの目標とする子ども像の設定

「子ども同士の意見のやり取りの中で、学習を深めていくことが出来るような子どもを育てる。」と目標を設定したが、各教科におろしたときに具体的にどういった子ども像を目指すかを考え、研究の方向性を一本化する

②主体的な伝え合いの場がある実践例、伝え合いから深め合う姿が見られる実践例を考える

研究テーマである、**子どもが輝く授業の創造**～みんなと学び合う喜びを感じて～「主体的な伝え合いを通して、深め合う」に基づいて実践例を考え、研究授業を行い、その教材や指導方法について研究していく。

研究授業について

それぞれの教科で実践事例を考え、研究授業を行っていく。(全員で見る授業は年間6回とする。)

《国語・算数・理科・社会・生活・体育・音楽・図工・家庭科・道徳》

1年次

【 国語 ・ 算数 ・ 社会 ・ 生活 ・ 体育 ・ 音楽 】

2年次(本年度)

【 国語 ・ 算数 ・ 理科 ・ 家庭科 ・ 図工 ・ 道徳 】

3年次

【 国語 ・ 算数 ・ 社会 ・ 生活 ・ 体育 ・ 道徳 】

●研究の内容と方法 < 3年次 >

①教科ごとの目標とする児童像の確認（加筆修正）

昨年度までの教科で設定した目標とする児童像を基本としながら、今年度研究を進めていく教科の担当で目標とする児童像を改めて確認する。必要がある場合は、加筆修正等見直しを加えていくことにする。

②主体的な伝え合いの場がある実践例、伝え合いから深め合う姿が見られる実践例を考える

昨年度から教科ごとに記録をしてもらっている実践例を参考にし、継続的に指導していったほうが良いものは継続していく。また、今年度新たに組み込んでいくものも引き続き今後の記録として残していくようにする。

【キーワード】 課題設定の場・子どもたちの共通の体験による価値判断の場・教科の特性

③ 昨年度の課題から本年度重点を置いていきたいポイント

①過去の実践例・授業記録の活かし方の検討

23年度から各教科において研究テーマに即した単元ごとの目標とそれを達成するための指導方法案を作成している。しかしながら、現状として入力するのみに終わっており、それが次年度への実践へのつながりを見せていないところがある。また、単元ごとの実践例も記録として残っているが、その中でどの部分を次に活かしていけばよいか明確になっていない。よって、本年度は教育課程検討委員会との連携を深め、初等部教員が普段の実践に過去の研究で行ってきたことを活かすことができるようにデータベースの明確化を図りたい。

また、授業の中での具体的な発問やそれに対しての児童の反応がどのようなものであったかがわかりやすい形で記録に残していくものとする。授業記録を教師の働きかけ・発問と児童の反応を明文化することで、主体的な伝え合いの姿ならびに深め合いの姿を今よりも分かりやすいものにしていく。

②評価について

話し合いも伝え合いの一つではあるが、「伝え合い＝話し合い」ではない。教科ならではの伝え合いを考え、そこから授業の中でどう取り入れていくことで、子どもの学びのプラスになっていくのか、それぞれの教科で研究を進めていきたい。そのために、伝え合いの方法について再度明らかにしていく必要がある。具体的にどのような手立てを用いて伝え合いをしていくのかについて、教科ごとに検討していくこととする。

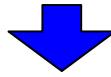
1つの授業を考えていくとき、子どもたちにどんな力をつけたいのか（**目標**）、そのためにどういった指導をしていくのか（**手だて**）を考えながら、授業を作っていく。本研究のテーマにあがっている伝え合いは、**目標**ではなく**方法**である。その授業での伝え合いを通してどんな力をつけたいのかという**目標**をしっかりとをもって取り組むことが大切である。そして、その**目標**にあたる部分が**深め合う姿**である。

そこで、本年度は校内研究を行うにあたり、評価基準の作成をしていく。伝え合いの到達目標を各教科で作成し、23年度から5段階での数値化を行っている。数値の変化が2年間の実践で見られるものがあるが、その根拠となるものが何であるのかを改めて検討していく必要がある。指導者と児童の両側面からの評価基準をこれまでの実践と本年度の実践の中から作成し、主体的な伝え合いから深め合う児童の姿をみとることができるようにしていきたい。

研究構想図

初等部の目指す児童像

『豊かなころ』、『確かな学力』、『健やかなからだ』を兼ね備えた、品位ある児童を育む



研究主題

子どもが輝く授業の創造 ～みんなと学び合う喜びを感じて～
「主体的な伝え合いを通して、深め合う」

研究の仮説

各教科で子どもが話したい、聞きたい、考えを伝えたいという主体的に伝え合おうとする学習を行っていくことで、授業だけでなく、日常生活の場面でも生かされる伝え合う力をもった子どもを育てることが出来る。また、その伝え合いから思考を深めたり、理解を深めたり、課題を解決したりする学習を行っていくことで、人との関わりの中で、自らの考えを深め、解決していく力をもった子どもを育てていくことが出来る。と考える。

校内全体研究

個人研究授業

日常の授業改善

①教科ごとの目標とする子ども像の設定

②主体的な伝え合いの場がある実践例、伝え合いから深め合う姿が見られる実践例を考える

国語 算数 理科 社会 生活 家庭科 音楽 図工 体育 道徳

各教科での学習で得た力が絡み合い、日常生活でも使える、伝え合う力を身に付けるとともに、そこから深め合えるようにする。

- ・日常生活でも生かされる伝え合いの力を身につけた子ども
- ・授業でも子ども同士の意見のやり取りの中で、学習を深めていくことが出来るような子ども